



令和4年度 美しい“ふじのくに”
インフラビジョン推進会議

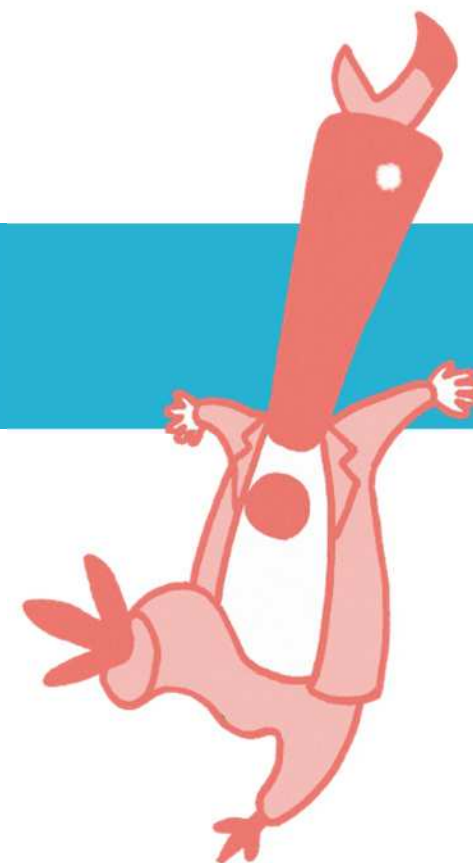
令和4年度 of 取組評価

令和5年2月2日





はじめに



1 位置付け

●「インフラビジョン」は、本県の“県づくり”の方向を示す総合計画「静岡県の新ビジョン」を上位計画とし、その基本理念の実現に向け、**各インフラ分野の個別計画を進める上での方向性・考え方**を示している。

総合計画との関係

基本理念

富国有徳の美しい“ふじのくに”の実現

富国有徳の「美しいふじのくに」

- 富国有徳の「美しいふじのくに」は、富士の名を体した日本の理想像
- 裾野は、命を守る危機管理がすべてに優先することを、「土」は徳のある人材を、「富」は物産の豊かさを示しており、人材と物産を豊かに備える自立した地域をつくり、美しく調和した富士山の姿に恥じない理想郷を実現しようとする考え方



< 防災・減災 >
 地震・津波対策アクションプログラム2013
 ～ 南海トラフ巨大地震への対策 ～

< 地域成長（地方創生） >
 “ふじのくに”のフロンティアを拓く取組
 ～ 安全・安心で魅力ある県土の実現 ～

主要な施策を位置付け

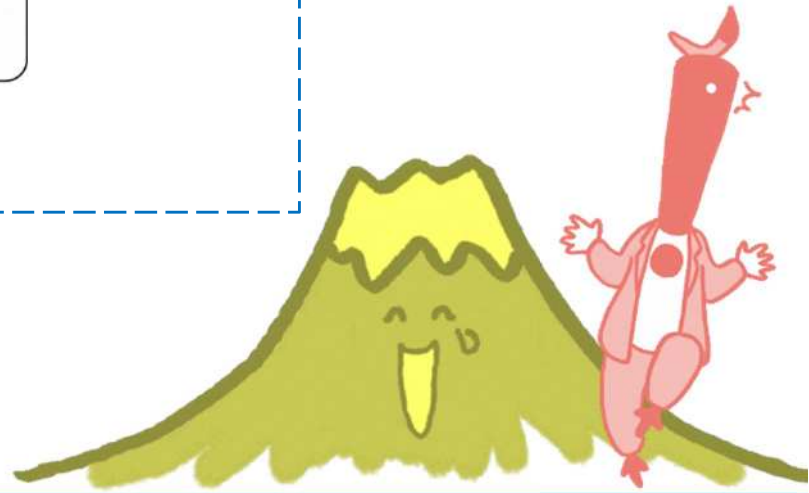
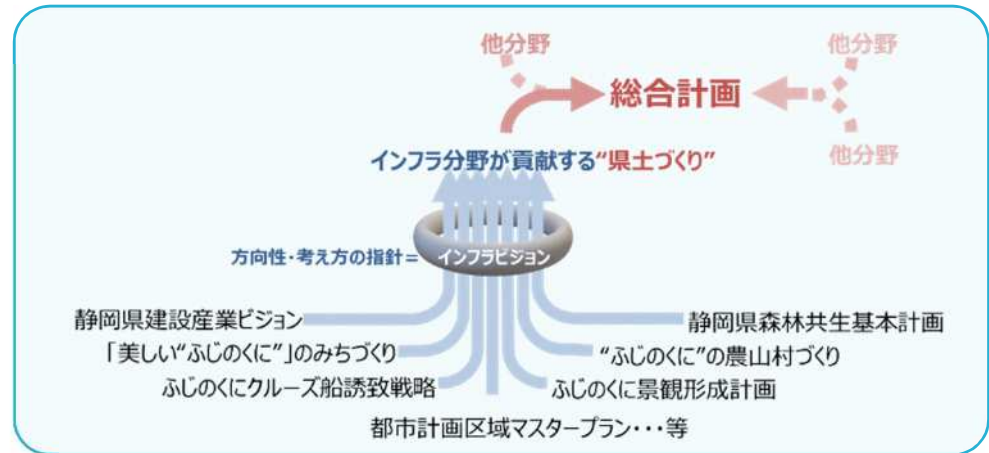
美しい“ふじのくに” インフラビジョン

～ いっしょに、未来の地域づくり。～

各インフラ分野

- | | | | | | | | | | | | | | | | |
|----|----|----|--------|----|----|------|----|------|-----|----|------|----|------|----|-------|
| 道路 | 治水 | 海岸 | 土砂災害対策 | 港湾 | 漁港 | 都市整備 | 公園 | 地域交通 | 下水道 | 景観 | 農業農村 | 空港 | 森林整備 | 治山 | 県有建築物 |
|----|----|----|--------|----|----|------|----|------|-----|----|------|----|------|----|-------|

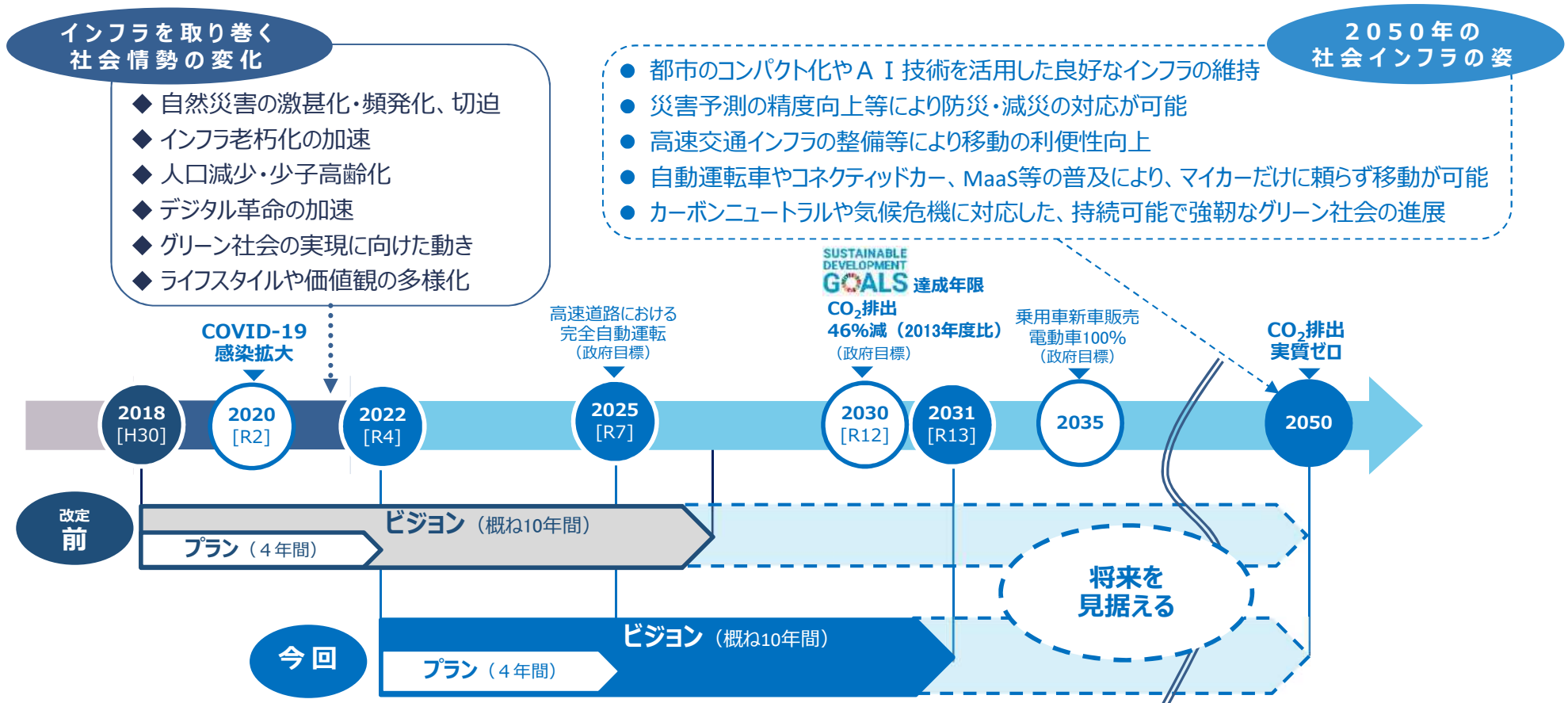
個別計画との関係



2 構成と期間

- 2050年の社会インフラの姿を見据えた上で、概ね10年間の基本理念と方向性などの「ビジョン」と、当初4年間の具体的な取組内容の「プラン」から構成。
- 約10年後の2030年は、SDGsの達成年限や、2050年カーボンニュートラルに向けて温室効果ガスを46%減（2013年度比）とする中間目標年となる**重要な年**であり、これを見据えた「ビジョン」としている。

ビジョンとプランの期間



3 ビジョン [1 / 3]

- 「ビジョン」は、「基本理念」、「2050年を見据えた本県の未来を創るインフラのあり方」、「今後10年間における県土づくりの方向性」により構成。
- 「基本理念」をもとに、関わる人すべてが、**県土や地域へ誇りと愛着を持って、一丸となり地域づくりを進めていく。**

基本理念

基本理念

富国有徳の美しい“ふじのくに”の実現に向けた「いっしょに、未来の地域づくり。」
～ 誇りと愛着を持って県土を育み、静岡の明るい未来へ ～

交通基盤部の基本理念と行動方針

- 交通基盤部（旧土木部）では、平成18年度に、公共事業を県民の皆さんといっしょに進めていくことが大切であるという職員の想いを「いっしょに、未来の地域づくり。」という言葉で表した基本理念と、職員がとるべき行動指針を定めました。

基本理念

いっしょに、未来の地域づくり。

行動方針

**子どもたちの未来のために、「富国有徳の美しい“ふじのくに”づくり」をめざして
静岡県交通基盤部の一人ひとりには約束します。**

- 県民の視点に立って、地域の皆さんと協働で仕事を進めます。
- 地球環境のために資源3Rの循環型社会をめざします。
- 情報をオープンにして、つねに広聴・広報に努めます。
- つねにコスト・時間を意識して、生産性の向上に努めます。
- 事業を超えて連携し、効率を高めます。
- 私たち全員がコンプライアンス（法令遵守）を徹底します。
- 県土づくりの専門家として、つねに技術力を磨きます。



3 ビジョン [2 / 3]

- **持続可能な開発目標（SDGs）の理念**を踏まえた取組が**全世界的に加速**。本県においても「**SDGsのモデル県**」として、将来にわたり持続可能な発展の実現を目指している。
- SDGsのビジョンを踏まえた、「**社会**」、「**経済**」、「**環境**」が調和した、「**持続可能で強靱な社会**」の実現に向け、インフラ分野が貢献できる「**県土づくり**」に取り組み、将来にわたって県民が豊かで安全な暮らしが実感できる地域社会の構築を目指す。

2050年を見据えた本県の未来を創るインフラのあり方

2050年を見据えた本県の未来を創るインフラのあり方

社会・経済・環境の調和による、持続可能で強靱な県土づくり

時代の潮流



“SDGs”の理念を
踏まえた取組の加速

SDGsに関する外務省ホームページ ▶



SDGs実施指針 ビジョン

持続可能で強靱、そして誰一人取り残さない、
経済、社会、環境の統合的向上が実現された
未来への先駆者を目指す

経済

グローバル化への対応
デジタル革命の急速な進展 など

社会

自然災害の激甚化・頻発化、切迫
人口減少・高齢化 インフラの老朽化
心の豊かさを求める価値観への移行 など

新型コロナウイルスによる 社会情勢の変化

- ・テレワーク等を活用した地方・郊外での居住、二地域居住の拡大
- ・リスクに強いサプライチェーンの構築 など

相互に関連 複雑化

環境

カーボンニュートラルなどグリーン社会の実現への動き
自然との調和への関心の拡大 など



3 ビジョン [3 / 3]

- 「安全・安心」、「活力・交流」、「環境・景観」の各分野と、分野を横断する共通の施策として、「県民との共創（オープンイノベーション）」、「県土との共創（カーボンニュートラル）」により構成し、方向性を設定。

今後10年間における県土づくりの方向性

今後10年間における県土づくりの方向性

安全・安心

R esilience

激甚化・頻発化する自然災害などから、
命と暮らしを守る
“強さとしなやかさ”を備える
県土づくり

活力・交流

E arning power

地方創生に向け、陸・海・空の
交通ネットワークを活かし、
“地域の稼ぐ力”や“地域価値”を高める
県土づくり

環境・景観

C omfortable life

心の豊かさを感じることができるよう、
美しい景観と良好な環境に満ちた
“ゆとりある暮らし”を支える
県土づくり

県民との **共創** (Open innovation (オープンイノベーション))

県土との **共生** (Carbon neutral (カーボンニュートラル))

県民との共創 (オープンイノベーション)

- 3次元点群データをはじめとした行政情報のオープンデータ化とともに、イベントなどを通じてニーズとシーズをマッチングさせ、新たな技術やサービスを呼び込み、官民連携による新しい価値の共創につなげていく。

県土との共生 (カーボンニュートラル)

- 2050年カーボンニュートラル実現の基盤となるよう、各施策に脱炭素化の観点を取り込み、長期的な視点を持って、技術開発や社会実装を含め、社会システムのイノベーションを目指すなど、脱炭素化に資する県土づくりに取り組んでいく。



4 プラン

- 「プラン」は、ビジョンで定めた基本理念や県土づくりの方向性を踏まえた、「視点」、「施策」、「重要な取組」により構成。

“プラン”の構成

施策・取組推進のために重要な“視点”

“県土のマネジメント”によって、ストック効果を最大化

各分野における“施策”

安全・安心	活力・交流	環境・景観
<ul style="list-style-type: none">● 激甚化・頻発化、切迫する自然災害への防災・減災対策の強化● 持続可能なインフラメンテナンスの推進● 安全・安心な移動空間の確保の推進	<ul style="list-style-type: none">● 持続可能で活力あるまちづくりや農山漁村づくりの推進● 産業や交流を活性化させる交通ネットワーク機能の強化● 交流拠点となる港湾・空港の機能強化と利用促進	<ul style="list-style-type: none">● 自然との共生と資源の循環利用の推進● 豊かな自然、文化、歴史に根ざした美しい景観の形成● 誰にもやさしく、快適な生活環境の形成
<ul style="list-style-type: none">● 県民との共創 (Open innovation (オープンイノベーション))<ul style="list-style-type: none">・ 3次元点群データの利活用促進・ i-Constructionの推進・ 公共交通への自動運転の導入 など● 県土との共生 (Carbon neutral (カーボンニュートラル))<ul style="list-style-type: none">・ 脱炭素化に配慮したまちづくりの推進・ カーボンニュートラルポート形成の推進・ 森林吸収源対策・ グリーンインフラの推進・ 県有建築物のZEB/ZEH化、省CO₂化 など		

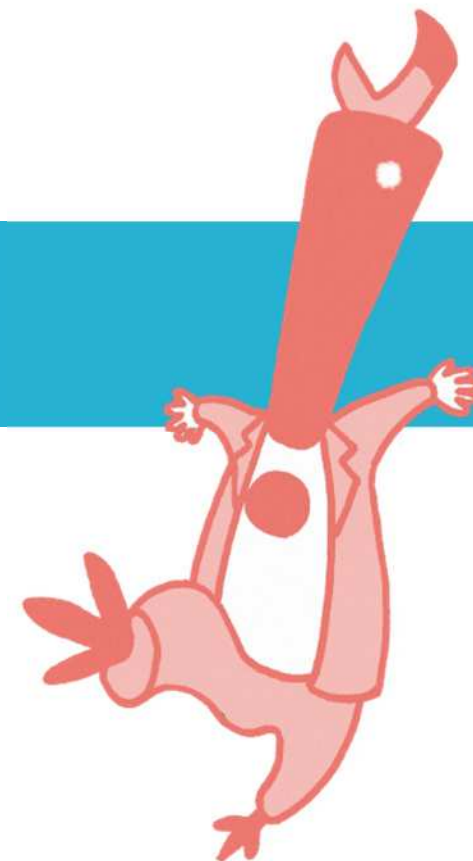
施策を効率的・効果的に行うための“重要な取組”

担い手確保・育成	多様な主体との連携・協働
<ul style="list-style-type: none">● 産学官コンソーシアムによる人材確保・育成● 「静岡どぼくらぶ」を活用した戦略的PR● 建設産業の働き方改革の促進● 総合的な技術力を備える人材の育成	<ul style="list-style-type: none">● 地域が抱えている課題を解決する仕組みづくり (協働の推進等)● 民間活力の導入 (PPP/PFI等)
絶え間ない改善・改革 (PDCA)	





令和4年度の取組



① 激甚化・頻発化、切迫する自然災害への防災・減災対策の強化 [1/3]

取組内容

- 気候変動に伴い激甚化・頻発化する風水害・土砂災害、切迫する南海トラフ地震や津波等の自然災害に対し、災害リスクを最小化するハード・ソフト一体となった総合的な対策を進めます。

令和4年度の取組

- 事前防災対策の推進のため、沼川など140河川の整備や、見高沢など3箇所の土砂災害防止対策が完成（見込）するなど、ハード対策を着実に実施。
- 河川内の堆積土砂掘削や立木伐採を145箇所、砂防堰堤の除石を30箇所実施し、河川の流下能力や土石流に対する捕捉容量を確保。
- 水防法に基づく洪水浸水想定区域図を芝川など183河川（見込）について作成・公表し、関係市町の洪水ハザードマップ作成を支援。

● 治水対策



放水路の整備

<一級河川沼川〔沼津市〕>



堆積土砂の掘削

<二級河川東光寺谷川〔島田市〕>

● 土砂災害対策



砂防堰堤の整備

<大坂沢砂防堰堤〔掛川市〕>



砂防堰堤の除石

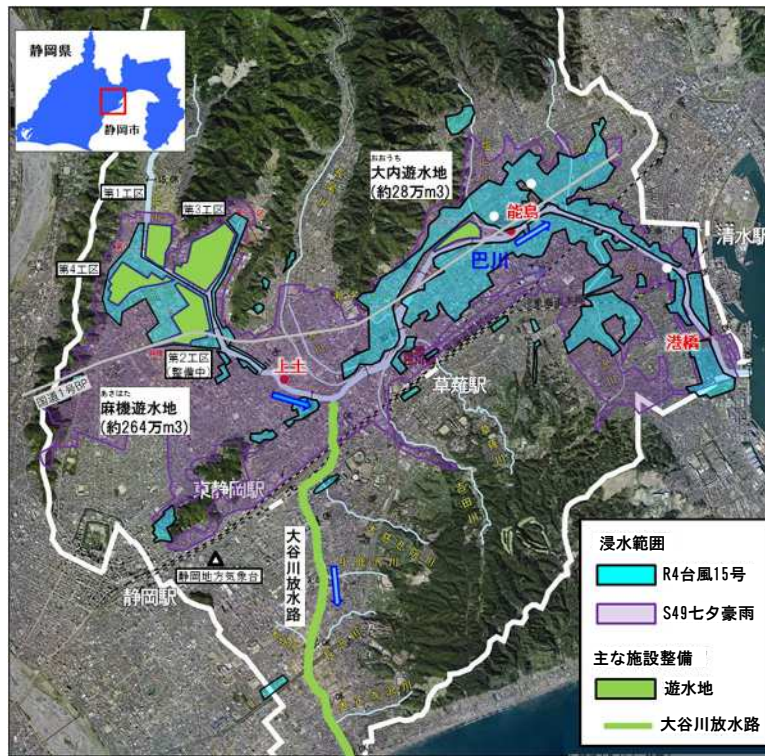
<船田川砂防堰堤〔松崎町〕>

① 激甚化・頻発化、切迫する自然災害への防災・減災対策の強化 [2/3]

整備効果事例

巴川水系巴川の河川改修等により、昭和49年七夕豪雨に比べ**浸水家屋数が大幅に軽減**

- 令和4年9月の台風15号に伴う豪雨により、静岡市では、地方気象台観測所で時間最大雨量107mm/h、24時間雨量417mmを観測。
- 巴川では、昭和49年七夕豪雨を契機として、昭和54年度から総合治水対策特定河川事業に着手。放水路や遊水地等に加え、雨水貯留施設等を整備。
- これまでの河川整備により、昭和49年七夕豪雨（概ね同規模の降雨量）と比較して、**浸水家屋数が約8割減少**。



■主な河川整備の経過

S49 昭和49年台風第8号と梅雨前線（七夕豪雨）

S54～ 総合治水対策特定河川事業着手

H11 大谷川放水路供用、麻機遊水地の第4工区供用

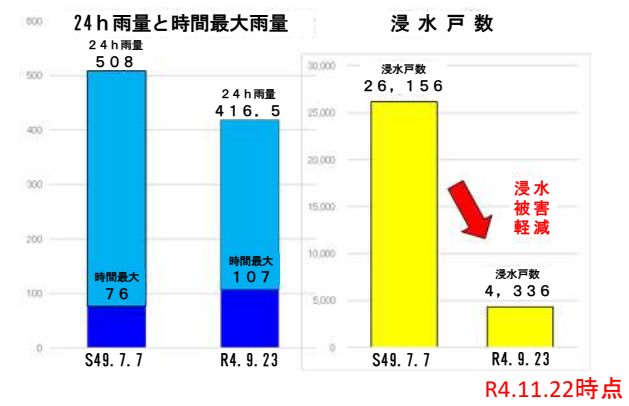
H16 麻機遊水地の第3工区供用

H20 大内遊水地供用

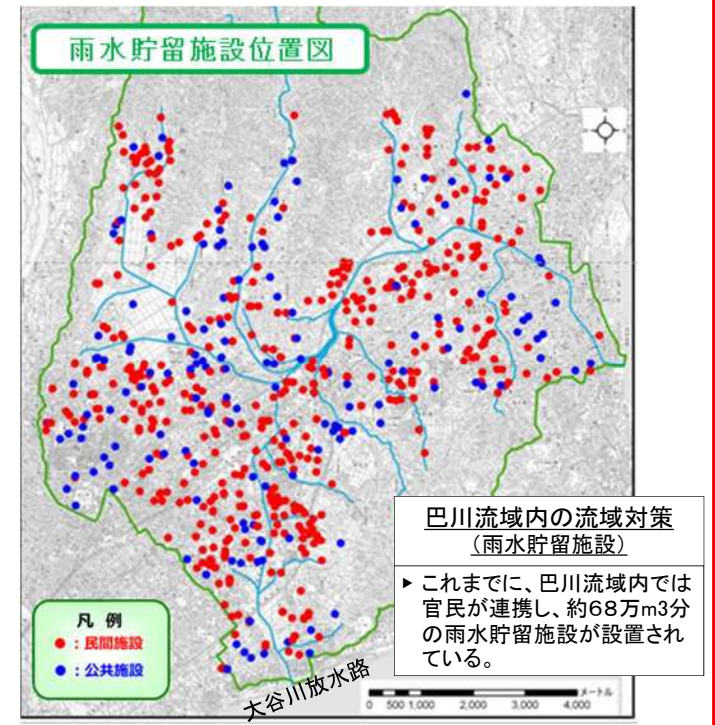
H21 特定都市河川に指定、麻機遊水地の第1工区供用

R3 麻機遊水地の第2工区の暫定供用

R4 令和4年台風第15号



※本資料は県職員による現地調査の他、SNS等で浸水が確認できた箇所のみ浸水範囲を記入しており、今後の詳細な調査により浸水範囲が拡大する可能性があります。



① 激甚化・頻発化、切迫する自然災害への防災・減災対策の強化 [3/3]

令和4年度の取組

- 堤防や水門などの津波対策施設の整備を進め、今年度末までに、海岸線延長213.5 kmについてレベル1津波を防ぐ堤防高を確保予定。
- 防災林や砂丘の嵩上げ・補強等を行う「静岡モデル防潮堤」について、志太榛原地域などの9市町が整備を進め、今年度末までに37.0 kmを完了予定。
- 港湾・漁港における堤防や胸壁・陸閘などの津波対策施設の整備を進め、今年度末までに、延長98.6kmについて津波に対する必要堤防高さを確保予定。
- 緊急輸送路や迂回路がない区間などの重要な路線にある橋梁の耐震対策を進め、今年度は42橋の対策が完了予定。

● 津波対策



防護が必要な
海岸線延長
290.8kmのうち、
約73%確保

海岸堤防の整備

<相良須々木海岸〔牧之原市〕>



計画総延長
69.2kmのうち、
約53%確保



市町による「静岡モデル防潮堤」の整備

<吉田海岸（川尻工区）〔吉田町〕>



Before



After

胸壁の整備

<焼津漁港〔焼津市〕>

地震対策
AP2013での
整備目標
85.2kmを
前倒して達成

● インフラの耐震対策



橋脚巻立

<県道古奈伊豆長岡停車場線〔伊豆の国市〕>



落橋防止

<県道焼津大井川線〔焼津市〕>

対象585橋
のうち、
約91%完了

② 持続可能なインフラメンテナンスの推進

取組内容

- 加速化するインフラの老朽化に対し、損傷が軽微な段階で修繕を行う「予防保全管理」により計画的なインフラメンテナンスを推進し、維持管理・更新等に係るトータルコストの縮減と機能維持を図ります。

令和4年度の取組

- 橋梁やトンネルなどの管理施設の点検や修繕を実施し、予防保全によるインフラメンテナンスを推進。
〔点検〕1,108橋・44トンネルなど、〔修繕〕172橋・42トンネルなど（見込）
- 持続可能なインフラメンテナンスの実現に向け「社会資本長寿命化行動方針（平成25年策定）」の改定に着手。



橋梁の長寿命化対策
＜葛蒲橋〔伊豆の国市〕＞



After
(橋梁塗装)



トンネルの長寿命化対策
＜奥野トンネル〔伊東市〕＞



After
(剥離防止対策)

● 社会インフラ長寿命化検討委員会

- ▶ 現行動方針の取組の進捗状況や社会情勢の変化等を踏まえて、持続可能なインフラメンテナンスを目指し、行動方針を改定

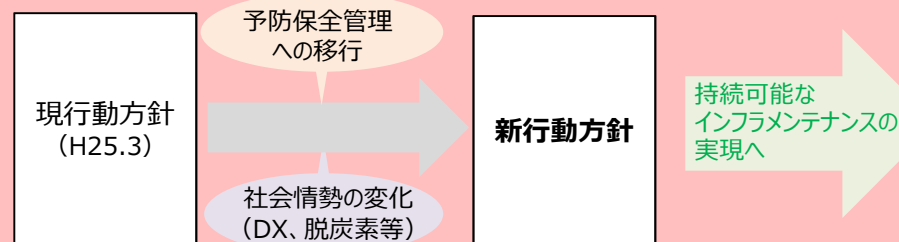
【開催状況】

・R4.9.21：現状・課題整理、方向性の検討



委員長	齊藤成彦（山梨大学）
委員 (学識)	岩波光保（東京工業大学） 谷倉泉（施工技術総合研究所）
委員 (行政)	交通基盤部理事（土木技術） 交通基盤部参事（防災技術）

● 行動方針改定のイメージ



③ 安全・安心な移動空間の確保の推進

取組内容

- 人優先の交通安全思想のもと、通学路や生活道路などにおいて、関係機関と連携しながらハード・ソフトの両面から必要な対策を実施し、安全・安心な移動空間の確保を進めます。

令和4年度の取組

- 通学路や未就学児の移動経路において、警察・学校関係者・地元自治会などともに、通学路等の合同点検を実施。
- 点検に基づき選定された県管理道路の要対策箇所（343箇所※）のうち、今年度は15箇所歩道整備などの対策が完了（見込）し、安全な道路空間を創出。

● 通学路・生活道路等の歩行空間整備



関係機関と連携した通学路等の合同点検
＜富士市＞



新たな歩道の整備
＜県道上青島焼津線（藤枝市）＞



要対策箇所※
全343箇所
のうち、
89%完了

※ 平成26年度～令和2年度に実施した通学路合同点検に基づく要対策箇所

① 持続可能で活力あるまちづくりや農山漁村づくりの推進 [1/2]

取組内容

- 集約連携型都市づくり（コンパクト＋ネットワーク）や生活交通の確保、良好な市街地の形成を推進するため、街路や公園、下水道等の都市施設の整備・適切な維持管理を推進します。
- また、農山漁村地域において、農林水産業が持続的に行われるとともに、地域の活力の維持・向上のため、農地、農林道や漁港の整備等の基盤整備を推進します。

令和4年度の取組

- 街路事業において、県施行22路線、市町施行27路線で事業実施。都市計画道路金岡浮島線など3路線を開通（見込）。
- 沼津駅周辺総合整備事業において、県市連携のもと、新貨物ターミナルの造成や交差道路の整備などを実施し、事業を推進。
- 土地区画整理事業において、組合施行12地区、公共団体施行8地区で事業推進。浜松市西美蘭西地区で事業完了。
- 地域公共交通の維持のため、交通事業者に対し、新型コロナウイルスや物価高騰への支援を実施。また、「“ふじのくに”地域公共交通計画」の策定に着手。

● 街路の整備



<都市計画道路 金岡浮島線〔沼津市〕>

● 鉄道高架事業を核とした市街地整備



新貨物ターミナルの造成



交差道路の整備

<沼津駅周辺総合整備事業〔沼津市〕>

● 土地区画整理



<西美蘭西地区〔浜松市浜北区〕>

● “ふじのくに”地域公共交通計画の策定

- ▶ 「誰もが移動に困らないサービスの提供」、「持続可能な暮らしを支える地域公共交通」の実現に向けて策定

【静岡県地域公共交通活性化協議会】

〔構成〕

交通事業者、市町、利用者団体、学識経験者 など

〔開催状況〕

- ・R4. 7.28： 計画策定と今後のスケジュール
- ・R4.12.23： 現状・課題整理、ビジョン案検討



第1回会議の様子

① 持続可能で活力あるまちづくりや農山漁村づくりの推進 [2/2]

令和4年度の取組

- 農地中間管理機構関連農地整備事業「静波」地区において、今年度までに茶園の区画整理6.4haを完成し、「茶産地構造改革基盤整備プロジェクト」を推進。
- 林業の基盤として、林道の整備（開設、改良舗装）を実施。（今年度16路線、5.9km（見込））
また、3次元点群データの解析による高精度森林情報をもとに設定した生産団地等において、効率的に丸太を運搬する基幹的作業道の整備を促進。（今年度11路線、7.7km）
- 山腹崩壊地、荒廃溪流等の荒廃山地において、治山施設整備や森林整備などの治山事業を実施。（今年度85箇所）

● 農業の基盤整備



着手時（令和元年度）

【茶産地構造改革基盤整備プロジェクト】

▶ 需要に応じた茶産地への転換を推進するため、平坦地は大規模低コスト生産による原料生産、中山間地は高級煎茶、輸出向け有機てん茶生産など、各茶産地の地域特性等を生かした基盤整備



茶改植前（令和3年度）



茶改植後（令和4年7月）

<静波地区〔牧之原市〕>

● 路網の開設・改良舗装による林業の基盤整備



<林道竹ノ沢線〔静岡市葵区〕>



<基幹的作業道〔浜松市天竜区〕>

● 治山施設の整備による森林の復旧



<川根本町東藤川地内>



<小山町中島地内>



② 産業や交流を活性化させる道路等の交通ネットワーク機能の強化

取組内容

- 道路整備や渋滞箇所の対策、自転車走行環境の整備等により、産業や交流の活性化などを支える物流・人流の円滑化を進めます。

令和4年度の取組

- 国道414号静岡バイパス（2.5km）の開通（令和5年3月）により、交通混雑の緩和や地域間交流の促進が期待。
- 富士山1周サイクリングルート（フジイチ：県内区間70km）で、矢羽根型路面表示の設置を今年度までに62km完了（見込）。

● 円滑な道路交通を確保する道路ネットワーク



<国道414号（静岡バイパス）〔沼津市〕>



国道414号の現道区間の
混雑状況

地域間の交流促進
産業の活性化に寄与
温室効果ガスの
排出削減にも貢献

● 自転車走行環境の整備



<国道469号〔富士市〕>

③ 交流拠点となる港湾・空港の機能強化と利用促進

取組内容

- 県内港湾や富士山静岡空港について、機能拡充・強化や利便性の向上を図り、産業や交流を支える物流・人流の円滑化、賑わいの創出を進めます。

令和4年度の取組

- 清水港 新興津地区の岸壁延伸事業において、今年度、ふ頭用地整備のための設計や埋立申請手続きなどを実施し、事業を推進。
- 清水港 日の出地区において、今年度、旧上屋（倉庫）を旅客待合所として利用するため、リノベーションを実施。
- 大規模災害時の広域防災拠点となる富士山静岡空港において、警察、消防、自衛隊などによる防災訓練を定期的実施し、機能を強化。また、イベント等を開催し、空港の賑わいを創出。

● 港湾の物流機能の強化



船舶の増加・大型化に対応した施設整備
(清水港新興津岸壁の延伸、ふ頭用地整備)
＜清水港〔静岡市清水区〕＞

● クルーズ船受入環境の整備



CIQターミナルとして整備した旧6号上屋



クルーズ船寄港時の様子 (R4.9)
＜清水港〔静岡市清水区〕＞

● 空港の機能強化・利用促進



静岡県総合防災訓練 (R4.9)



空の日フェスタ2022 (R4.10)
＜富士山静岡空港〔島田市・牧之原市〕＞

① 自然との共生と資源の循環利用の推進 [1/2]

取組内容

- 持続可能な社会の実現に向け、自然環境の保全・再生・創出や自然環境が有する機能を活用したインフラの整備を進めるとともに、建設副産物のリサイクルの推進など、資源の循環利用に取り組めます。

令和4年度の取組

- 麻機遊水地において、近隣の小学生を対象とした自然観察会の開催など、豊かな湿原環境を活かした自然学習のフィールドとして活用。遊水地内の土に含まれる貴重種の種子を保護。かく乱管理により種子更新を促し、掘削による植物への影響を低減する取組を実施。
- 磐田市、袋井市、掛川市及び御前崎市において、潜在自然植生、先人の知恵など、場の力を活用した「ふじのくに森の防潮堤づくり」を推進。今年度までに約12kmを整備。

● 自然環境を活用した取組



サクラタデ観察会



夜の昆虫観察会



土壌の保全活動



柴揚げ漁と魚類観察



オニバスの観察
＜麻機遊水地〔静岡市葵区〕＞



湿地のかく乱作業

● ふじのくに森の防潮堤づくり



＜磐田市福田地内＞



＜掛川市沖之須地内＞

津波対策
だけでなく、
平時に
「憩いの場」として
活用

① 自然との共生と資源の循環利用の推進 [2/2]

令和4年度の取組

- 荒廃森林について、土砂災害の防止、水源かん養機能などの森林の公益的機能の回復に向け、「森林（もり）づくり県民税」を財源にした森の力再生事業により整備。
- 単独処理浄化槽から、環境にやさしい合併処理浄化槽への転換について、市町へ設置費用を支援し促進。（今年度は、3,100基整備（見込））
- 田子の浦港において、水質・底質環境の改善を図るための浚渫埋立工事を実施し、今年度、浚渫・埋立を完了（見込）。
- 清水海岸の侵食対策として、安倍川の河道掘削土砂を活用した養浜を実施。今年6月、アカウミガメの産卵を確認。

● 森林の整備・保全



<浜松市北区滝沢 >

林内が明るくなり、
下層植生が地表を覆うことで、
公益的機能が回復

● 生活排水処理施設の整備



合併処理浄化槽のはたらき

出典：環境省発行小冊子「浄化槽による地域の水環境改善の取組」



合併浄化槽の設置

● 底質の改善



浚渫の状況

<田子の浦港〔富士市〕 >



浚渫土を粒径分別・脱水

● 海岸の保全



安倍川の掘削土砂を活用した養浜工事

<清水西海岸〔静岡市清水区〕 >



静岡市内では
5年ぶりに確認
※前回は2017年の
蒲原海岸

② 豊かな自然、文化、歴史に根差した美しい景観の形成

取組内容

- 「ふじのくに回遊式庭園」の実現に向け、県土の魅力を高める景観の保全と創造に取り組めます。
- また、豊かな自然を賢く活用し、美しく、質の高いインフラの整備を進めます。

令和4年度の取組

- 広域景観形成の取組として、「富士山」、「伊豆半島」、「大井川流域・牧之原大茶園」、「浜名湖」の4エリアで広域景観協議会ワーキンググループを開催。地元住民や企業、道路利用者等との協働による修景事業、景観PR事業、屋外広告物対策など市町と連携して各行動計画に基づく取組を推進。
- 県実施の公共事業のうち景観に与える影響が大きいものについて、景観懇話会 公共空間高質化専門部会による景観検討を8件実施。

● 修景事業



ガードパイプ塗替え
＜湖西市＞



ガードレール塗替え
＜島田市＞

● 景観検討



建築物の色彩
＜高等学校建替事業＞

③ 誰にもやさしく、快適な生活環境の形成

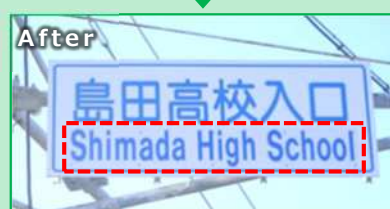
取組内容

- 誰もが安心して生活ができるよう公共空間のユニバーサルデザインの導入を進めます。
- また、ゆとりや賑わいのある魅力あふれる空間を整備するなど、あらゆる利用者の目線に立ち、生活の質を向上させるインフラの整備を進めます。

令和4年度の取組

- 県営都市公園「富士山こどもの国」において、車イスやベビーカー利用者などの移動を円滑にするため、高低箇所にスロープカーを整備。
- 県営住宅において、高齢者などの移動を円滑にするため、エレベーターや手すりの設置、床段差解消、車いす利用者向けの住戸を整備。また、外国人入居者向けに、敷地内の案内看板や入居案内の多言語化を実施。
- 県管理道路の道路案内標識の英語表記の内容改善や表示拡大を564箇所を実施（見込）。
- 沼津市と富士市の2区間で、県管理道路で初となる「歩行者利便増進道路」を令和4年4月に指定し、道路を活用した地域の賑わいや活力ある取組を促進。

● 公共空間のユニバーサルデザイン



公園

<富士山こどもの国（富士市）>

県営住宅

<吉川団地（静岡市）>

道路案内標識

<県道島田岡部線（島田市）>

● ゆとりや賑わいのある公共空間の形成

【歩行者利便増進道路（通称：ほこみち）制度】

- ▶ 賑わいのある道路空間を創出するための制度。
- ▶ 指定道路内に定めた利便増進誘導区域では、道路占用許可が柔軟に認められ、カフェやベンチ等が置きやすくなる。



歩行者利便増進道路での賑わい

<県道三島富士線（富士市）>



県民との共創（オープンイノベーション） [1/2]

取組内容

- データの利活用などにより、インフラ整備のデジタル化・スマート化を進めるとともに、積極的に新技術を導入し、生産性の向上や新たなサービスの創出など、官民連携により社会課題の解決やイノベーションを進めます。

令和4年度の取組

- 台風15号などによる災害発生現場において、災害発生状況の把握や復旧工法の検討に、「VIRTUAL SHIZUOKA」を活用。
- 「VIRTUAL SHIZUOKA」を活用して、自動運転用の高精度地図を作成し、掛川市や沼津市、松崎町で自動運転実証実験を実施。

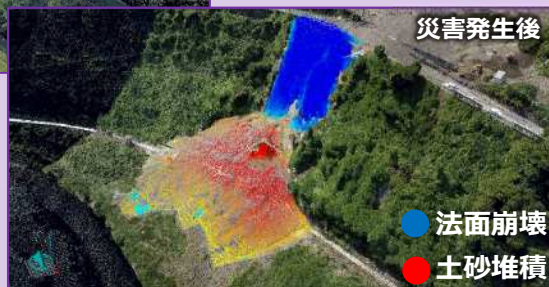
● 「VIRTUAL SHIZUOKA」の活用推進

【VIRTUAL SHIZUOKA（バーチャルシズオカ）】

- ▶ レーザスキャナ等で現実空間をスキャンして、高密度な3次元点群データを取得し、仮想空間にデジタルツインとして構築した県土
- ▶ 取得したデータは、誰もが自由に使えるオープンデータとして、インターネット上に公開済



※ 「災害発生前」、「災害発生後」とともに、3次元点群データから作成された画像



災害発生後に取得したデータと、発生前にすでに取得しているデータを比較し、速やかに土砂量を算出

災害発生状況の把握
＜ 国道473号〔島田市〕 ＞



自動運転車両の走行状況（掛川城前）



遠隔監視の状況（掛川市役所）



顔認証による乗車実験の状況（掛川駅前）

自動運転実証実験の状況

＜ 掛川市 ＞



県民との共創（オープンイノベーション）[2/2]

令和4年度の取組

- 民間において、「VIRTUAL SHIZUOKA」を、バーチャル富士登山コンテンツの作成や、森林のCO₂吸収量算定のために活用
- 3次元点群データ等の活用の裾野を広げていくため、誰もが使いやすいプラットフォームの構築に着手。さらに、東京都とプラットフォームを共同で構築、相互利用していくための協定を締結。
- 建設現場のニーズと企業等が保有する技術シーズのマッチングを図る、「新技術交流イベント」を開催。

● 「VIRTUAL SHIZUOKA」の活用促進

VRゴーグル等を使用して
バーチャル空間での富士山の登山体験



バーチャル富士登山コンテンツ作成

- 富士市の社有林において、3次元点群データを活用し、樹高、樹種、エリアなどを解析することにより、森林のCO₂吸収量を算定
- ▶ 当手法によるクレジットの国認証取得は国内初



従来
(現地踏査)



今回
(3次元点群データ活用)

森林のCO₂吸収量算定

● 「新技術交流イベント」の開催

【新技術交流イベント in Shizuoka 2022
～ VIRTUAL SHIZUOKAでつくる ミ・ラ・イ ～】

- 開催日時：11月8日
- 会場：静岡県コンベンションアーツセンター グランシップ
- 出展：83企業・団体、110技術（過去最大規模）
- 来場者数：946名（過去最大）



学生ボランティアによる受付



学生も多く来場

県土との共生（カーボンニュートラル） [1/2]

取組内容

- 2050年カーボンニュートラルの実現に向け、脱炭素化に配慮したまちづくり、省エネルギー対策の強化、再生可能エネルギーの導入や自然資源を活かした吸収源対策など、地球温暖化緩和に取り組めます。

令和4年度の取組

- 県有建築物の省エネ化を進めるため、コスト等を考慮した効果的な省エネ手法等を定めた「県有建築物ZEB化設計指針」を策定（予定）。
- 藤枝東高等学校と交通管制センターにおいて、設計で「ZEB Ready」を達成し、建設中。（令和5年度完成予定）
- ZEBの普及に向け、「公共建築の日」に、建築分野のカーボンニュートラルの第一人者である田辺早稲田大学教授による講演会を開催。
- 緊急輸送路上の道路照明灯のLED化を、今年度、1,600基で実施（予定）。（対象 8,572基）

● 県有建築物

【ZEB（ネット・ゼロ・エネルギー・ビル）】

- ▶ 大幅な省エネルギー化を実現した上で、再生可能エネルギーを導入することにより、年間のエネルギー消費量の収支をゼロとすることを目指した建築物

ZEB Ready	エネルギー消費量を50%以上削減
Nearly ZEB	同75%以上削減（創エネ含む）
『ZEB』	同100%以上削減（創エネ含む）

ZEB Ready 達成

イメージ図



省エネ
CO₂排出を減らす

県有建築物のZEB化
＜藤枝東高等学校〔藤枝市〕＞



県・市町職員、
建築士、施工業者など
127名が聴講

有識者による講演会の開催

● 道路



Before
(高圧ナトリウム)



省エネ
CO₂排出を減らす

After
(LED)

道路照明灯のLED化
＜国道362号〔川根本町〕＞

県土との共生（カーボンニュートラル） [2/2]

令和4年度の取組

- 清水港において、カーボンニュートラルポート（CNP）の形成に向け、国や静岡市、33民間事業者、関係団体から構成する協議会で議論を進め、今年度、「清水港CNP形成計画」を策定（予定）。
- 御前崎港において、バイオマス発電施設の令和5年7月運転開始に併せ、燃料船の受入れのための施設整備等を推進。
- 奥野ダムや太田川ダムにおいて、維持放流水等を利用したダム管理用の小水力発電設備を設置し、これまでに、それぞれ約1,300t、約1,695t相当のCO₂排出量を抑制。（設置から令和4年10月末までの間）
- CO₂吸収量を確保する間伐等の森林整備の促進や、森林の適正な保全に取り組み、吸収源となる健全な森林づくりを推進。木材生産や造林保育の低コスト化、エリートツリー苗木の生産体制の確立などにより、主伐・再造林を促進。

● 港湾

【カーボンニュートラルポート】

▶ 形成計画には、温室効果ガス削減対策だけでなく、次世代のエネルギーの需要・供給を考慮し、エネルギーを港湾で受け入れることも計画に盛り込む。



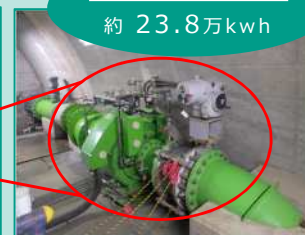
燃料となる木質ペレット等を、北米や東南アジアから受け入れに向け整備



創エネ
エネルギーを創り出す

バイオマス発電施設稼働に向けた港湾整備
＜御前崎港〔御前崎市〕＞

● 河川



＜奥野ダム〔伊東市〕＞



＜太田川ダム〔森町〕＞

※ 令和4年10月末時点での令和4年度の想定

創エネ
エネルギーを創り出す

維持放流水等を利用した小水力発電

吸収源対策

CO₂吸収確保



間伐等により整備された森林

高い林齢に偏った森林の若返りを進め、CO₂を吸収を活性化



主伐・再造林により、若い苗が育つ森林



① 担い手確保・育成（インフラ整備を担う建設産業への支援・人材育成）

取組内容

- 官民が連携して、働き方改革や生産性向上の取組を推進するとともに、建設産業の従事者に誇りや働きがいをもたらされ、担い手の呼び込みや定着につながるよう、インフラの重要性や魅力を広く発信し、建設産業への理解促進に努めます。

令和4年度の取組

- 県内公共工事を一斉に休工する「ふじ丸デー」を、今年度は、毎月第2・第4土曜日の月2回に拡充。（従前は、毎月第2土曜日のみ）
- 週休2日推進工事について、今年度は、実働日数30日以下の工事（1週間程度は除く）も対象に追加。
- インターネットを通じて受発注者間の書類のやり取りを可能とする「情報共有システム」について、適用可能となる工事の対象を拡大。
- 建設産業の重要性や魅力を伝えるために、小学生から高校生を対象に「静岡どぼくらぶ」講座（現場体感見学会・出前講座）を25回開催。
- 小学生とその保護者を対象に、工事現場見学と観光を組み合わせた「親子インフラツーリズム」を、7月と12月の2回開催。

● 「静岡どぼくらぶ」講座

〔開催状況〕

単位：回（人：参加人数）

項目	小学校	中学校	高等学校等※	合計
現場見学会	1（21人）	1（55）	10（275）	12（351）
出前講座	9（506）	1（121）	3（47）	13（674）
合計	10（527）	2（176）	13（322）	25（1,025）

※ 参加人数に、1/24・25、2/1開催分は含まれていない。



<太田川ダム〔森町〕>



<坂口谷川水門〔牧之原市〕>

● 親子インフラツーリズム

〔開催状況〕

【第1回】R4.7.26開催

- ・参加人数：40人
- ・見学場所：馬込川水門、浜名湖遊覧船、新東名高速道路 浜北高架橋 など

【第2回】R4.12.26開催

- ・参加人数：32人
- ・見学場所：富士川かりがね橋、静岡県富士山世界遺産センター、沼川新放水路 など



<馬込川水門〔浜松市南区〕>



<富士川かりがね橋〔富士市〕>

② 多様な主体との連携・協働 [1/2]

取組内容

- 民間事業者や県民等の多様な主体が、インフラや県土を「自分に非常に関係する物」として捉え、地域に対する誇りと愛着を持って、保全・維持管理や利活用に積極的に参画できるような仕組みづくりを進めていきます。

令和4年度の取組

- 大規模な県営住宅の建替事業においてPPP/PFI方式を導入。民間事業者グループによって、佐鳴湖団地で9月に第1工区（145戸）を建設着手し、麻機羽高団地で7月に県と事業契約を締結。
- 清水港及び周辺地域において、「みなとまちづくり」を公民連携により推進することを目的に、「（一社）清水みなとまちづくり公民連携協議会」を設立し活動。今年度は、2地区（清水駅東口・江尻地区、日の出・巴川河口地区）で地域の将来像を示す「ガイドプラン」を作成・公表。

● 県営住宅へのPPP/PFI方式の導入

団地名(所在地)	建設年度	棟数・戸数	進捗状況	効果	
				VFM※	工期短縮
東部(静岡市)	H23~H28	2棟・176戸	完了	7.11%	5年
今沢(沼津市)	H27~R2	5棟・220戸	完了	8.62%	6年
佐鳴湖(浜松市)	R3~R10	5棟・440戸	工事中	6.12%	9年
麻機羽高(静岡市)	R4~R9	4棟・185戸	設計中	8.10%	2年
原(沼津市)	R5~R11	250戸以上	契約前	7.38%	3年

県営住宅の大規模な建替事業における民間活力導入実績
(PPP・PFI実績) ※VFM=Value For Money
従来方式の想定事業費と
予定価格の差額



<麻機羽高団地〔静岡市葵区〕>

● 公民連携による清水港・周辺地域のガイドプラン作成

【（一社）清水みなとまちづくり公民連携協議会】

- ▶ 清水港及び周辺地域において、“みなと”の管理者である県と、“まち”の管理者である静岡市、そこで活動する民間事業者が、“みなと”と“まち”を一つの資産として最大限に活かす「みなとまちづくり」を公民連携により推進することを目的に設立



自治会説明会

イベントでの取組紹介



将来イメージ（清水駅東口・江尻地区ガイドプランより）

② 多様な主体との連携・協働 [2/2]

令和4年度の取組

- 国道414号静浦バイパスでは、事業への理解促進や施設に対して愛着を深めてもらうため、市民を対象とした現場見学会を開催。
- 浜松市沿岸域防潮堤において、防災上の役割だけでなく、平時における憩いや賑わいの場、防災や環境を学ぶ場など、市民にとって多様な役割を担う空間となるよう、市民が参加する「みんなで守る防潮堤」イベントを11月に開催。
- 高齢化や人手不足などの課題を抱える「リバーフレンドシップ団体」で、リモコン式除草機を積極的に活用するため、機械の操作説明会や体験会によるPRを開催。

● 道路整備に関する現場見学会



<国道414号静浦バイパス（沼津市大平）>

● 「みんなで守る防潮堤」イベント



誇れる防潮堤を
後世に引継ぐために、
「オール浜松」による
持続可能なマネジメントの
実現につなげる

<浜松市沿岸防潮堤（浜松市南区）>

● 「リバーフレンドシップ団体」活動支援



③ 絶え間ない改善・改革

取組内容

- 現場見学会や出前講座等、あらゆる機会を通じてニーズを把握します。また、SNS等のツールを活用しながら、インフラ整備の意義や目的等を県民や利用者へわかりやすく伝えるとともに、気軽に意見や提案を受け入れる体制を整えることにより、双方向のコミュニケーションを図っていきます。
- インフラに関わるすべての人の働き方改革を促すような事務改善など、これまでの枠組みやルールにとらわれない柔軟な発想で絶え間ない改善、改革に取り組んでいきます。

令和4年度の取組

- 袋井市や関係団体等と連携し、「静岡どぼくらぶ YouTubeチャンネル」にて、今年度、24本の動画を新たに公開。動画数は104本となり、4月からの総視聴回数は約2万2千回超。
- 土木の魅力伝えるパネル展示を公共施設や県立図書館等で5回開催するとともに、建設産業の魅力発信に関わるアンケートを実施。
- 交通基盤部の技術職員が利用する業務用PC（約800台）について、テレワークが可能となるモバイルPCへ更新。

●「静岡どぼくらぶ YouTubeチャンネル」



「静岡どぼくらぶ YouTubeチャンネル」トップページ

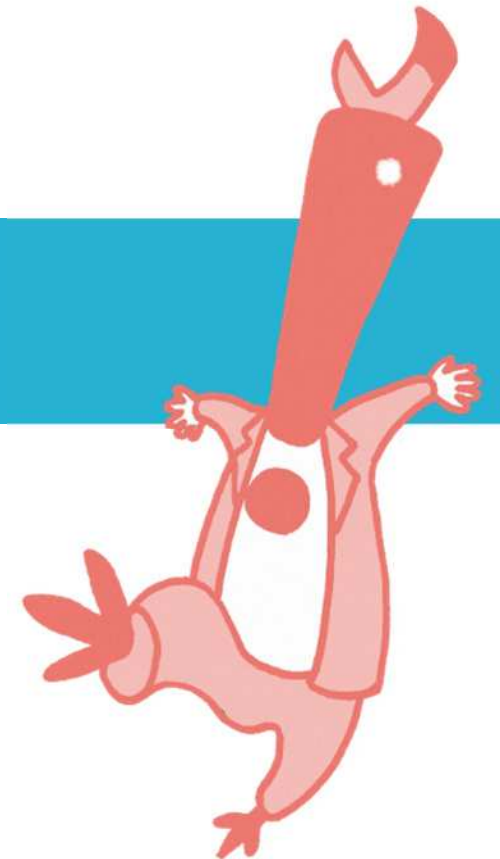
●パネル展示時のアンケート実施



ふじえだ産業祭（静岡県武道館）



まとめ

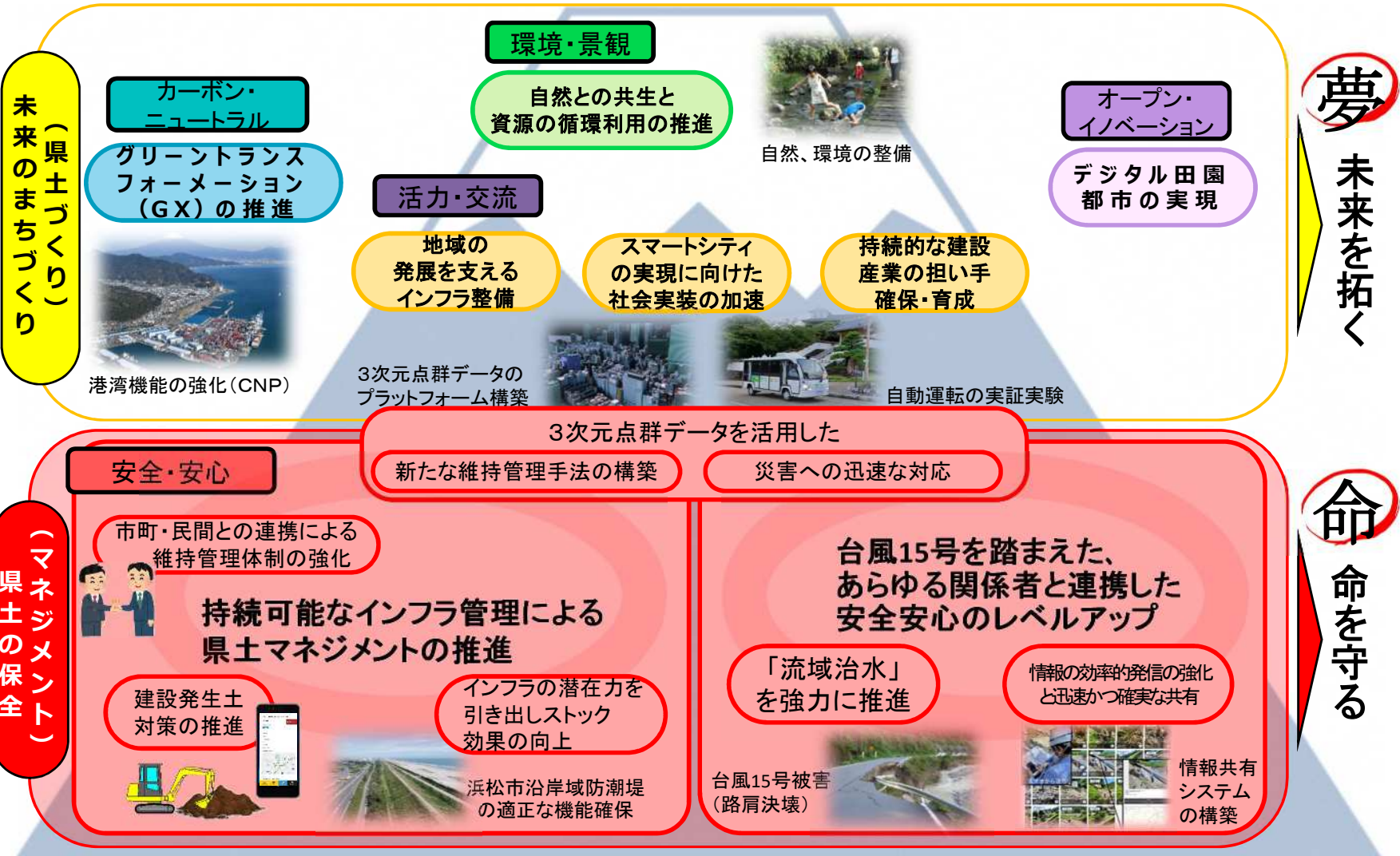


令和4年度の取組評価・今後の方向性（案）

- 令和4年度は、美しい“ふじのくに”インフラビジョンに基づく、**施策や取組を着実に開始した。**
- 引き続き、ストック効果を最大限に発揮できるよう、重点的、戦略的な取組を加速させ、**持続可能で強靱、そして美しい“ふじのくに”づくりを推進**していく。
- 特に、「**県土の保全**」の観点から、昨年9月の台風15号での教訓を踏まえ、防災・減災が当たり前となる社会の構築に向け、あらゆる関係者と連携し、「**流域治水**」の強力な推進などに取り組み、**安全・安心のレベルアップ**を図っていく。
- さらには、「**未来のまち・県土づくり**」の観点から、**3次元点群データのプラットフォーム構築**を進め、先駆的な東京都や国土交通省のモデル等を融合させることにより**3次元点群データの活用を推進し、スマートシティの構築、県民生活・都市活動の高度化の実現**を目指していく。

富国有徳の美しい“ふじのくに”の実現

～ 新しき 未来を拓く 礎が 憧れを呼ぶ ふじのくにへと～
県土づくりのプロフェッショナルとして、時代の「大転換期」に対応した持続可能で強靱、そして、美しい“ふじのくに”づくりを推進



「美しい”ふじのくに”インフラビジョン」の
データはこちらから

